

自分の考えをもち、自ら表現することの楽しさを 実感できる授業づくりのあり方

指定校 2 年次 上田市立南小学校 小林 美奈
和田 洋明

1 本校の新聞活用（N I E）の現状

本校の教育目標は「つよく・ただしく・あたたかく」である。それをもとに「子どもたちが楽しいと実感できる授業づくりのあり方はどうあったらよいか」を全校研究テーマとして掲げ、「自分の考えをもち、自ら表現することの楽しさを実感できる授業づくりのあり方はどうあったらよいか」をN I Eの研究テーマとして取り組んできた。

本校の子どもたちは素直で明るい。物事を前向きにとらえ、臆せずに他者に伝えられる子どもも多い。また、質問に対しては、素直に考え伝えることができ、素直に受け入れることができる。本研究グループでは、この良さをさらに伸ばしたいと考えた。

しかし、素直に言葉で表現できる反面、筋道を立てて説明したり、文章に表したりすることはあまり得意ではない。日々の学習場面では発言する子どもと、そうでない子どもの差が大きく活発な意見交換にはなりにくい。また、このような話し合いは、自分の考えと他者の考えとを比べながら聞いたり、他者の意見と関連づけながら発言したりといった経験の少なさにもつながっている。それは、自分の考えを効果的に相手に伝える具体的な技術が身につけていなかったり、小グループで発表し合うなど授業形態が工夫されていなかったりといったことも「説明下手」の原因としてあげられる。

本研究グループでは全校テーマ「楽しいと実感する」を「自分の考えが伝わったときの達成感を得る」ととらえた。伝えるための具体的な方法の一つである意見文を通して、効果的に伝える文章構成などを知り、その方法で小グループで発表し、さらに大きな集団で認められることで達成感を味わう。そうすることで元来の表現する力をさらに高いものにすることができるのではないかと考え研究を進めてきた。

実践を行った6年2組の子どもたちは、非常に明るく元気の良い子どもたちが多く、休み時間も外で活発に遊んでいる。授業中も一生懸命課題に取り組み、考える姿が見られる。

しかし、発言の様子を見ると、自分自身で考えたことを表現する場では、手が挙がらないことが多い。また、意見を書く場面でも、自分が伝えたいことは何なのかがはっきりしない文章になることが多い。その理由として、意見や考えはあるけれど、それをどう表現したらいいのかが分からないため、不安で自信が持てないでいることが挙げられていた。

また、全国学力調査の結果では、学年の中で唯一「書く力」が全国平均を下回り、個別に見ると書くことが得意な子と苦手な子の差が大きく、二極化していた。

そこで、自分の意見を相手に伝わりやすくするために構成がはっきりしている意見文を書くことで、自分の意見や考えを伝える方法を知り、表現する力を高められるのではないかと考えた。また、そのために、日頃から新聞スクラップに取り組む子どもたちに、意見文と同じ構成で書かれている新聞を使い、さらに小グループで発表する場を設け、友だちに自分の意見や考えが認められ、より自信をもって全体の場で発表でき、伝えることの達成感や喜びが得られるように、実際に国語科の授業単元として取り組んだ。

2 実践のねらい

〈このような本校の児童の実態〉

- 明るく素直でどんなことにも一生懸命活動しようとする子どもたち
- 反応がよく、感想を言ったりその場の雰囲気盛り上げたりする子どもたち
- 日々の生活や学習の場面では、積極的に発言したい子どもたち
- できれば発言しないで聞き役に回りたい子どもたち
- 発表の経験が少なかったり、自分の考えを発表する仕方がわからなかったり、自分の意見に自信が持てないでいる子どもたち
- 自分の考えを表現したり、お互いの考えを聞き合ったりする楽しさ・喜びを知らない子どもたち
- 書くことに抵抗がある子どもたち



〈具体的な手だて〉

- ◇自分の考えを持つ
 - ・教科書 資料『「平和」のとりでを築く』の内容理解
 - ・新聞による「平和」についての記事集め
 - ・構想カードの活用により自分の考えを明確にする
- ◇表現するための方法を知る
 - ・意見文が効果的に伝わる文章構成の提示（教科書の資料や新聞記事）

論理的な文章の配置には、頭括型（とうかつがた）、尾括型（びかつがた）、双括型（そうかつがた）がある。頭括型は「結論。なぜなら理由」、尾括型は「理由。ゆえに 結論」、双括型は「結論。なぜなら理由。ゆえに結論」の構成

- ・自分の考えが効果的に伝わる文章構成の選択
- ・自分の意見の根拠となる新聞記事の選択と効果的な叙述の順序決め
- ◇友だちと伝え合う場面設定
 - ・少人数グループでの発表の場を設定
 - ・相手に伝わる文章構成になっているか色分けして確かめ合う
 - ・感想やアドバイスを出し合う中で、文章を推敲する



〈目指す児童の姿〉

- ・自分の考えに根拠を持ち、「書くこと」に抵抗なく意見文を書くことができる
- ・自分の考えを、人前でも自信を持って発表することができる
- ・自分の考えを表現したりお互いの考えを聞き合ったりすることに、楽しさ・喜びを感じることができる

3 研究の概要

（1）昨年度までの研究より

① 環境作りについて

昨年度は、「新聞をより身近なものとして感じ、新聞に興味を持たせたい」という願いで、環境を整えたり、身近な教材や新聞記事を利用したり、できることから手探りの状態で始めた。

9月から1月までの6社購読の新聞では、興味を持った児童がコーナーで新聞を読んだ

り、朝の会での記事紹介に利用をしたり、小学生新聞を図書館に置いて自由に閲覧できたりするように工夫した。まだまだすべての児童が、というわけにはいかなかったが、9月と1月の様子を比べると新聞に興味を持った児童が増えていることは明らかである。

今後、より効果的にするためには、新聞を置く場所の工夫と、学級で紹介するために日ごろから教師側が新聞を読み、子どもたちが興味をもてそうな記事を朝の会の話に入れたり、使いたい記事や今後使うであろう記事をストックしたりしていく必要があると考えた。

② 教材の利用について

信濃毎日新聞学習カードの利用では、国語の読解や言語活動、算数での統計的学習、理科での科学的事象や社会での歴史的事象の学習など、教科学習としての身近な教材として利用していくことができた。また、信毎データベースの利用も、様々な教科、道徳、特別活動において学習につながる利用ができた。来年度も継続して全校児童が利用できる環境作りを考えたい。

③ 自分の考えをわかりやすく表現するための新聞の活用

小学校生活を振り返り、自分らしい表現で意見文に表すことを通して自分に自信を持ち、意欲を持って中学校へ進学していくことを期待し、小学校時代の中で成長した自分を実感するだけでなく、文章に表現し友だちや家族に向けて発信していくことで、相手に自分の考えを伝える楽しさや伝わったときの達成感を味わってほしいと考え、研究を進めてきた。

構想カードの利用が予想以上に効果的であった。表現することに自信のない子どもたちが、新聞社の方に用意していただいた構想カードを使って、「意見」「理由・体験」「感想・意見」と、段階をおって下書きを書き、それを利用したら、原稿用紙へ1時間で書き上げてしまった。しかも、どれも自分の考えをしっかりと持ち、相手に気持ちが伝わるすばらしい意見文に仕上がった。

しかし、新聞社提供の構想カードによる、気持ちが伝わりやすい意見文の書き方は、どれも同じ型になり、子ども自身の考えを効果的に伝える文章構成にするには、更なる工夫が必要ではないかと考えた。

(2) 本年度の実践事例 ～研究テーマにかかわって～

① 信濃毎日新聞 N I E 推進協議会の方による出前教室(4学年) (わかりやすく表現するための基本を学ぶために)

4年生が信濃毎日新聞社の方に来ていただき、新聞の作り方について学習した。低学年のときにも新聞づくりは経験してきたが、事柄を羅列していたり、生活文との違いに戸惑い書けなくて困っていたりすることがあった。事前の調査でも、「作文が苦手」という子がほとんどだった。しかし、今回「心に残ったことを3つ選ぶ」「大事なことから大きな記事にする」「5W1Hに感想を加えていくと自然に記事が出来上がる」などの書き方を教えてもらったことにより安心して新聞づくりに取り組むことができ、多くの子どもが満足いく新聞づくりができた。

また、見出しを工夫したり図や写真などを加えたりすることにより、読む人に一目で内容が伝わり読みやすく楽しい新聞になることも学んだ。子どもたちは、この出前授業により、新聞の役割や書き方を知り表現することの楽しさを味わい、新聞を身近に感じるようになってきた。これを機に新聞の作り方に興味をもち始めた子も多く、今年度は信濃毎日新聞社へ社会見学に行ってきた。



出前授業の様子(4学年)

② 「斜面」の書き取り

信濃毎日新聞の「斜面」などの1面コラムは、少ない紙面に書き手の意図を的確に伝え

るための表現の工夫がされている。起承転結など、基本的な文章の構成に慣れることができるのではないかと考え、家庭学習や朝のドリル学習などで取り組んでいる。

① 表現力を身につけるためのグループ学習

「貴族と武士の生活のちがいは、どんなところか。」を学習する際、当時の生活の様子を表した絵から特徴を見つけ、グループ内で発表し合う活動を行った。全体発表の場では、発言を苦手とする子も小グループ内では、話し合いに参加し、意見交換をしていた。また、グループ内で意見を共有することが、自分の意見への自信にもつながり、全体共有の場での発言も通常の授業よりも多かった。



グループ学習の様子(6学年)

(3) 授業実践の内容

単元名 「平和」についての意見文を書こう (6年)

単元の目標

- ①「平和」をめぐる自分の意見が説得力をもつように具体例や資料を集め、意見を明確に伝えるために文章全体の構成の効果を考えることができる。
- ②意見文をもとに、話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで意見を主張することができる。
- ③話し手の意図をとらえ、自分の意見と比べながら聞き、助言や提案をすることができる。
- ④書き言葉と話し言葉の違いに気づくことができる。

単元展開の概要

次	学習活動	予想される児童の姿	教師の支援	時
第1次	①「平和のとりでを築く」を読み、「平和」について考え、学習の見通しを持つ。	○日本では、こんなに大変なことが起こっていたんだね。 ○意見文は、どうやって書いたらいいんだろう。	・意見文を書く際の「相手意識」が持てるように、「10代から」に投稿することを伝える。	1
第2次	②P94の意見文の例を読み、意見文の書き方(構成)を知る。	○意見文には、「意見」「理由」「結論」の3つの要素が必要なんだね。 ○「意見」と「結論」は、同じことが書かれているね。	・新聞も意見文と同じ構成であることに触れる。 ・意見文を書くのに必要な3つの要素をおさえる。	1
	③共通の新聞記事から、意見文に必要な3要素の部分を見つけ、色分けをする。	○これは、「意見」だよな。 ○これは、「理由」の部分だね。 ○ここが結論だね。	・新聞社の構成表を使う。 ・分かりやすい記事で、全体で練習する。	1
	④3要素の並べ方による伝わり方の違いについて学習する。	○最初に結論を言うと、伝わりやすそうだね。 ○2回意見を言うのは、説得力があるね。	・3要素を基に、自分の意見を効果的に伝えるための順番を決められるようにする。	1
	⑤平和についての自分の考えの中心を短く文章にまとめ、「仮の要旨」を決める。	○自分は、この考えについて書いていこう。 ○どうやって、この意見に説得力があるようにしようかな。	・自分の平和に対する考えが明確に持てるようにする。	1

	⑥意見に説得力を持たせるために具体例や資料を集め、要旨を確定する。	○この新聞記事のここが根拠として使えそうだな。 ○実際に体験した話があると説得力があるね。 ○この記事に書いてあることは、自分が体験したことと似ているな。 ○「事実」の部分にこの記事が使えそうだな。	・自分の意見を伝わりやすくしたり、説得力が増したりするような新聞記事選びをするようにする。 ・体験や資料があると意見がさらに伝わりやすいことをおさえる。	2
	⑦意見文の構成を考え、構成カードへ記述する。	○「意見」と「理由」は、しっかり区別して書かないといけないね。	・自分の記事から特に理由の部分が書けるように支援する。	1
	⑧グループで「理由」の部分の構成を確認しながらアドバイスをし合う。	○こういう順番で書くと伝わりやすいかな。	・アドバイスする視点を明確にする。	1 (本時)
	⑨原稿用紙に記述する。	○500字にまとめるのは、けっこう大変だね。	・文体など、新聞に載せることを意識して書くように指導する。	2
第3次	⑩グループで表現や構成について助言し合う。	○実際に文章にしてみると、さらに直すところがでてきたな。 ○構成をもう少し変えてみようかな。	・文章を色分けしながら、推敲する。	1
	⑪文章の直しをし、意見文を完成させる。	○細かいところだけど、新聞にのるならしっかり直しをしていかないといけないね。	・誤字脱字など細かいところまでチェックするようにする。	1
	⑫発表をし、学習のまとめをする。	○納得のいく意見文が書けてよかったな。	・この単元での自分の成長を振り返るようにする。	1

本時案

学習のねらい

意見文の構成を考え、構成カードへ記述した子どもたちが、友だちと「理由」の内容についての感想や構成についてアドバイスしあう活動を通して、「理由」の順番を入れ替えることによるそれぞれの伝わり方の違いに気づき、より自分の意見が伝わりやすい構成について考えることができる。

本時の位置 (12時間中の第9時)

前時：意見文の構成を考え、構成カードへ記述した。

次時：考えた構成を基に、原稿用紙に記入する。

指導上の留意点

今までの学習を振り返りながら本時の学習に取り組めるように、今までの学習の記録の教室内に掲示しておく。

学習の展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	教師の指導 評価	時間	備考	
導入	1 本時の学習について知る。	より伝わる意見文にするには、どうしたらよいだろうか。				
	2 基本的な文章の構成について復習する。	○「頭括型」「総括型」「尾括型」が大切だったよね。 ○説得力があるようにするためには、「理由」の内容が大事になるんじ	・基本的な文章の構成について確認する。 ・説得力があるためには、「理由」の部分が大切であることを確認する。	10		

		<p>やないかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体験があると伝わりやすいよね。 ○「理由」の順番が入れ替わるだけで、伝わり方が違うね。 ○自分の意見文の「理由」の順番は、どうしたらいいかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「体験」について書かれていると良いことを確認する。 ・「理由」の部分の入れ替えにより、説得力に変化が出る例を示し、順番も大事であることを確認する。 ・一番伝えたい理由が最初に来ると良いことを確認する。 		
展開	<p>3 構成カードを使って、「理由」の部分の書く順番について考える。</p> <p>4 グループの中で読み合い、アドバイスをする。</p>	<p>「理由」の部分の内容や書く順番をアドバイスしあおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「体験」「事実」「予想される反論」の順番で書こうかな。 ○「体験」が2つあるから、最初に「事実」を書こう。 ○「事実」のあとに「体験」があると説得力が増す気がするな。 ○「事実」がもう少し分かりやすく書いてあるといいんじゃないかな。 ○「事実」の新聞記事が、理由の最初に来ると、その後の「体験」がもっと分かりやすくなるんじゃないかな。 ○「事実」のところと「体験」のところに関連しているので分かりやすかったよ。 ○「体験」のところがとても良いことが書かれているね。 ○「予想される反論」についても書かれているから、さらに説得力を感じたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・悩んでいる児童には、「理由」の入れ替えをいろいろなパターンをやりながら、どれが良かったかを一緒に確認する。 ・3～4人のグループを作り、書く順番に関するアドバイスを赤色、内容に対しての感想を黄色の付箋に記入するようにする。 ・同じ感想やアドバイスは、前の人付箋に付け足して書くように指示する。 ・記入が進まない児童には、理由の順番を変えながら読んでみて、それぞれの感想を書くように指導する。 	5	構成カード
				20	付箋
終末	<p>5 アドバイスをもとにもう一度構成を考え、学習の感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○このまま書けば、うまく相手に意見が伝わりそうだな。 ○うまく意見文が書けそうだな。 ○たくさん感想をもらって嬉しかったな。 ○自分に合う書き方が見つけてよかった。 ○「理由」の部分の順番や内容は、意見文でとても大切な部分なんだな。 	<p>構成の特徴に気づき、「理由」の部分について自分の意見が伝わりやすい構成を考えることができたか。(ワークシート・発言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをしっかりと相手に伝えるためには、文章の構成が大切だということを確認する。 	10	

単元名 「スケート教室の記事を書こう」 (3年)

本時案

学習のねらい

スケート教室へ行ったことを新聞にしようとしている子どもたちが、5W1Hが抜けた文と入った文を読み比べることを通して、読む人に分かりやすくするには、5W1Hを書くことが大切であることを知り、スケート教室へ行った時のことを5W1Hを入れた記事にすることができる。

指導上の留意点

- ・5wについては、自分で考えて書くように指導し、hについてはこちらで例文を示しながらすすめる。
- ・今回は、スケート教室の記事のリード文以降の内容については触れない。
- ・スケート教室欠席者には欠席していた時にしていた事を書くように指示する。

学習の展開 (抜粋)

段階	学習活動	予想される児童の反応	教師の指導 評価	時間
導入	1 2つの文を声に出して読んでみる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">スケート教室のことをミニ記事にしよう。</div> ○新聞だ。 ○社会見学の時にも書いた。	・ツルヤ見学のことについて書かれた2つの文(Aの文、Bの文)を紹介する。	5
展開	2 2つの記事を読み比べる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">読む人につたわりやすくなるポイントを見つけよう。</div> ○「今日」だとわからないから「12月15日」の方がいいんじゃないかな。 ○たくさん書いてある方がわかる。	・どうして分かりやすいと思ったのか理由を聞く。 ・わかりやすい箇所と理由が発表できたら黒板に掲示した答えを1つずつ開く。	10
	3 どちらが分かりやすいか発表する。	○ツルヤじゃなくてツルヤ神畑店の方がどこのツルヤかわかる。 ○「ぼくは」とかじゃなくて「南小学校3年1組2組」だとすごくわしい。	・「5W1H」という言葉は使わず、「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」「なぜ」「どのように」をつかう。 ・Bの記事は「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」「なぜ」「どのように」の書き方であることを確認する。	10
	4 記事を書くときに大切なことを知る。	○Bの記事の方は行った理由がわかる。 ○店長さんに説明してもらって勉強したのがわかる。		5
終末	5 スケート教室のことを記事にする。	○「1月23日」って書こう。 ○スケート場じゃなくて市民の森スケート場だ。 ○3年生だけじゃなくて4年生もいたから書いた方がいいかな。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">読む人に分かりやすくするには、5W1Hを書くことが大切であると知り、スケート教室へ行った時のことを記事にする事ができた。(ワークシート)</div>	10
	6 出来た記事を発表する。	○「なぜ」スケート教室に行ったんだろう。 ○めあてカードを使ってスケートをやった。 ○今度書くときは、これをつかって書くんだ。	・5W1Hが入っている記事の発表を聞いて、分かりやすい記事が書けたことを確認する。	5

4 研究のまとめ（成果と課題）

（1）公開授業より

「平和」についての意見文を書こう（6年）授業より

- ・相手の意見文をよく読み、自分もアドバイスをもらったので、自分の文章構成をふり返ったときに、構成をどのように組み立てればより相手に伝わるのか、考えるきっかけとなっていた。
- ・構成の順番を変えると、印象が変わることに気づき、自分をはじめに考えて書いた文章の順番を、もう一度見直して文章を書くことができた。
- ・友だちが付箋に書いた良かったことの感想から、文章を書くこと（意見文）の自信にもつながっていた。

N I E 新聞活用の視点から

- ・新聞記事から事実を使って意見文を書くことは、分かりやすい説得力のある文章につながる。
 - ・意見文の中核になる自分の考えがしっかりしていないと、人の文を読もうと思わない。意見文は結論をしっかり持つことが大切である。
 - ・読者意識を持っているので、自分の考え（文章構成）について人にアドバイスをもらい、さらに自分の考えを確立することができた。
- *新聞記事から、意見文の事実を集めたが、平和に関する記事をただ集めてしまったので、自分の意見（結論）に結びつかない意見文もあった。結論につながる記事集めの仕方をもう少し工夫すればよかった。

スケート教室の記事を書こう（3年）授業より

- ・記事の書き方の「ポイント」がクイズ形式になっていて、記事を参考にしたら分かりやすい文章が書けた子どもたちがいて、書き方について理解でき、今後に役に立つものとなった。
- *5W1Hの「なぜ」「どうやって」が子どもにとらえ方によって難しい。学年に応じた指導方法が課題となった。

（2）研究テーマの視点から

- ・クラスの発表会では、事前に小集団で「相手に伝わる意見文になっているか」アドバイスをし合い意見文を仕上げたため、一人ひとりが自信を持って発表ができ、相手に自分の考えを伝えられた達成感を味わうことができた。
- ・6年全員が書いた「平和」についての意見文を、信濃毎日新聞「建設標・10代から」へ投稿した。投稿した意見文が新聞に掲載されたことで、より意見文の書き方が確かなものへ確信され、自信へとつながった。
- ・3年の子どもたちは、スケート教室の体験を、模範の記事を参考にしながら分かりやすい文章（ミニ記事）に書き、ほとんどの子が満足していた。自分の考えが伝わったときの達成感をもち、表現することの楽しさにつながる授業となった。